



尚操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚操会
〒682-0925
鳥取県倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内
0858(28)-1811
印刷 勝美印刷(株)
0858(35)-4411

会長挨拶

新しい生活様式にチャレンジ



尚操会会長 藤井 幸博
(西高二十四回)

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。尚操会の活動につきましては、平素より皆様のご理解とご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスの感染が世界各国に広がり、予断を許さない状況のなか、日本では5月25日に全国において緊急事態宣言が解除されました。鳥取県内は県民一人一人が感染予防に取り組んだ成果により、幸いにも感染者は少なかつたようですが、7月に入り新たに県内感染者が出ました。今後も感染拡大の第2波、第3波の到来に向けて備えが必要だと思えます。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月に予定していました尚操会総会には中止することにいたしました。総会終了後の講演、懇親会を楽しみにしておられる会員の皆様には残念なことになり、申し訳ございません。今後の事業実施につきましては、適切な感染対策を取り、感染者を出さない、クラスターを発生させないように、慎重に進めなければならぬと考えております。

ところで、母校には、自転車競技部があります。平成7年に創部、福井敬司先生、河田拓也先生の指導の下、輝かしい成績を残してきました。西高在学中は第

67回国民体育大会少年男子1kmTTで優勝し、現在競輪S級で活躍されている佐伯亮輔さん(西高60回)、令和元年の全日本学生選手権スプリントで優勝を果たし、現在は競輪デビューを目指している山根将太さん(西高63回)、そして今年鳥取県の女子選手として初めて日本競輪選手養成所の試験に合格した宮本杏夏さん(西高67回)のご活躍は会員の皆様もご存じかと思えます。山根さんと宮本さんのお2人は、来年の5月頃にきつとそろってプロデビューを果たしてくれることでしょう。練習環境が厳しく見通しも立たないコロナ禍において、スポーツ選手のみならず、工夫して練習を続けるチャレンジングな姿には本当に励まされます。

そして、チャレンジしなければならぬのは私たちも同様です。当分の間、私たちは新型コロナウイルス感染症と共生することになります。安全で安心な日常が一日でも早く取り戻せるよう、身体的な距離を取り、手洗いや消毒を励行し、マスクを着用するとう、「新しい生活様式」の実践にポジティブな気持ちでチャレンジしていきましょう。

会員の皆様としてご家族の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

花・水・木

尚操会の会員の皆様、初めまして。今年度より教頭を務めている三谷徳彦と申します。倉吉西高校に勤務して、まず何よりも思うことは、生徒の明るさです。稲毛校長が本校の特色を「生徒が輝いていること」と述べられますが、そのとおりだと思ふことが多々あります。県内他校に先駆けて平成19年度に導入された探究活動である生徒の進路と結びついたチャレンジグループ活動、全国入賞を誇る弓道部、自転車競技部を含む活発な部活動、

きめの細やかな指導のできるアットホームな教育環境が生徒の活躍を支えています。また、校章を掲げてそびえる校塔から生徒玄関に至るまでの緑豊かな杜や中庭にある生徒のために作られたステージを見ることに、同窓生の皆さんの本校生徒に寄せる熱い想いや期待を感じているところです。今年、新型コロナウイルス感染症予防のため、教育活動が制限される場面もありますが、こんなときだからこそ、校訓である「立志」の精神をもち、不確実な時代を乗り越え、社会に貢献できる人材を育成したいと考えています。創立100周年を超える伝統ある本校の一層の発展に尽力いたしますので、会員の皆様どうぞよろしくお願いたします。

教頭 三谷 徳彦



ピンチをチャンスに変える西高生

校長 穂毛 靖

日頃より同窓生の皆様方には本校教育をご支援いただき、心から感謝申し上げます。

今年3月頃から新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨時休業や学校行事の中止、規模の縮小、そして部活動の制限による感染防止対策を行ってまいりました。新学期に入っても、4月上旬から5月下旬までは1ヶ月半の間全国に緊急事態宣言が出され、生徒の目標としていた大会や行事は中止となりました。この決定により感染拡大は抑えられ、平常に戻りつつありますが、全生徒の心への影響は計り知れません。特に3年生にとっては複雑な思いであると推測していますが、生徒たちは至って落ち着いた様子で現実をしっかりと受け止めてくれているように感じています。

部の姿からチャンスに変えようとする意気込みが伝わってきました。

昨年度の挨拶の中でも書きましたが、「西高で一歩誇れるものは何か」と聞かれたら、「生徒が輝いていることです」と私は答えています。入学した時はまだ中学生という感じですが、1年毎に成長し、卒業の頃には心が大きく育っていて、目標に向かって努力を積み重ねようとする力が備わっています。昨年度の卒業式は、出席者を卒業生、保護者、教職員に限定して行いましたが、主役である卒業生の立ち居振る舞いが素晴らしく、思いのこもった素晴らしい卒業式となりました。

部活動では、昨年度、弓道部が全国選抜大会女子個人の部で優勝したことを筆頭に、自転車部も全国高校総体や国体で大いに活躍しました。それに加え、卓球部も全国選抜大会女子個人の部に参加する選手が現れ、音楽部は県吹奏楽コンクールでゴールド金賞を獲得しました。また、鳥取県高校生英語弁論大会に出場した生徒が第二位に入賞するなど、様々な分野で成果が現れており、これからの活躍がますます楽しみになっています。もちろん最後まで受験勉強をやり抜いた卒業生の姿勢も、後輩たちに良いお手本を示してくれました。今年も例年開催している大会が中止になってしまったため、部活動での頑張りを今は



『静から動へ』

西高第15回卒業生(昭和43年) 小谷 公子

15回生です。50年以上も前の生徒会活動について思い出すままに。

女高であった生活は、男子のいない違和感が始まり、毎回の「我が校は良妻賢母を目指し！」の校長挨拶に時代錯誤を感じました。2年生の時に誘われて総務部に入りました。いつもの行事を今まで通りにこなすだけの現状を知り、打てば響く校風に変えたいと思い、前期、後期共会長を引き受けたような次第でした。そんな時に、倉吉東高会長の発案で中部全校の会長集会が初めてあり、各校の様子がよくわかり有意義な会でした。行事等の資料作成としては、学校側へ説明するのですが、ことごとく反対され、その都度に評議員

報告することができませんが、代替試合を行う予定がありますが、で、終了した競技から随時ホームページ等で報告していきたいと思

います。現在の学校の様子を報告させていただきますでしたが、この成果はすべて先輩方の良き伝統を着実に受け継いでいることに外なりません。同窓生の皆様のお陰で現在の西高があると思いますので、これからも後輩たちを応援していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

を通してクラスからの更なる工夫案を出しました。私達には期限があり、途中でブレたり投げ出す訳にはいきません。攻防の日々が続き、学校側からの要求も、前進の為に、一致団結して守り、ついに条件付きながらもOKが出て次のステップへ向かいました。

生徒会は、倉吉東高の学園祭の視察へ行き、参考にしました。ちなみに西高へは農高生徒会が視察に来られました。こうした交流は、多分初めての生徒会の繋がりがたつたのではないのでしょうか。まず、運動会終了後に「打ち上げ」と称して校庭で、はやりのダンス(ゴーゴー、モンキー、ロックス)を全員でしました。この企

画は体操部がリーダーとなって1週間前から朝練をしましたので、本番は最高にはじけました。そして文化祭は、ステージでは演劇、バンド、バレエ等、多種多様な発表があり、教室はお化け屋敷、茶店、手芸品、各部活の作品等、今までにはない趣向を凝らしていました。

今では当たり前の内容でしょうが、初めて生徒、しかも女子力で創った文化祭でした。もちろん生徒会のガンバリもありましたが、下級生には静から動への氣質が確かに備わっていました。大きく風が変わったのでしよう。あの頃の先生方、お騒がせしました。さり気なくアドバイスして下さった先生ありがとうございました。ちょっと出過ぎた杭の私は赤面の思い出ですが、今は昔。



『新しい生活様式で生きる!』

西高第15回卒業生(昭和43年) 廣谷 静枝

人類に突如と襲って来た新型コロナウイルススー!誰も予測できなかった状況が目の前に繰り広げられています。

昨年11月下旬、西高第15回卒業生3年6組のクラス会に集まったのは県内外から古希を迎えた仲間19人。元気な様子を喜び合い、声高らかに校歌を熱唱し、2年後の

再開を約束して別れました。その楽しかった一時を一時にしてこわしてしまおうような、この度の新型コロナウイルス感染症の状況です。不安を抱えながらお互いに心配するしかありません。

そんな中、私の地域から友人、知人に直筆でハガキを書こうという運動が提案されました。じつと

家に閉じこもりがちで運動不足を、ポストまで歩こうという一石二鳥の取り組みです。早速、尚操会の仲間にお見舞いのハガキを書きました。返信されたハガキには、故郷を思う気持ちとお礼がつつられ胸が熱くなりました。

新型コロナウイルス感染症の騒動が起こる直前、今年2月にブラジル在住日本人の映画監督岡村淳さんのドキュメンタリー映画が倉吉市内で上映されました。日本人移民の女性の姿が生き生きと描かれていました。その上映直後の、社会環境の変化です。学校に行けない子どもたちのことも気がかりでした。

4月下旬思いがけないメールがブラジルの岡村さんから届きました。当時ブラジルでは、犠牲者が4000人を超えていることの様子や、お見舞いの気持ちが届められており、今回の事態で鳥取県の素晴らしい取り組みが広く、長く注目されることでしょう。と結んでありました。

改めて人と人が繋がっていくことの大切さを実感すると共に、今までとは異なる生活様式により、これから生き抜く子どもたちが、新たな未来を切り拓いて行くことを願わずにはいられません。



クラス会だより

30年たっても変わらぬ仲間たち

(西高36回生)

▽とき 令和元年8月14日
▽ところ セントパレス倉吉(倉吉市)

去る8月14日、18:00より倉吉駅前前のセントパレス倉吉にて昭和63年度卒(第36期)3年1組クラス会を開催しました。

私の怠け者な性格もあり準備には約1年近くかかりましたが、身近なクラスメイト達のご尽力もあり、開催することができました。

当時、英語コースであった2年時、3年時の1組はほぼ同じメンバーだったため2年時の担任であった岩本一志先生にご出席頂きました。

本来であれば3年時の担任であった伊藤礼弘先生にもご出席頂きたかったのですが、約17年前にお亡くなりになったため御招待状を持ってご家族に開催の報告にご自宅に伺いました。しかしながら、お留守でしたので置いてまいりました。

クラス会には卒業時の半分のクラスメイトに集って頂けました。よく顔を合わせるクラスメイトもいれば、10年ぶり、20年ぶり、さらには卒業以来30年ぶりに再会するクラスメイトもあり、始まるまでは「みんな喜んでくれるだろうか?盛り上がるだろうか?」と、幹事として非常に不安で緊張しておりましたが、いざ始めると私達の心は一気に30年前に戻り、思

い出話や近況報告に花を咲かせました。ほんの2時間ほどの宴ではありましたが、30年たっても変わらぬ仲間たちと同じ時を過ごせて本当に楽しいクラス会でした。

記・小原 浩



30代へと足を踏み入れた記念すべきこの年

(西高55回生)

▽とき 令和2年1月2日
▽ところ セントパレス倉吉(倉吉市)

倉吉西高校を卒業して早12年、同窓会を待望する声も年々増えてきていたため、30代へと足を踏み入れた記念すべきこの年に、同窓会を開催しました。当日は多くの先生方が駆けつけてくださり、青

春真つただ中の高校生時代を懐かしんだり、全員が10秒スピーチのかたちで近況報告をしたりと、実に濃い時間を過ごしました。

同窓会を通じて、勉強に部活に遊びにと、毎日忙しかった高校時代に培ったことの多くが、今も活きていると改めて感じました。そして、高校生の頃は輝いて見えた「大人」に、実際になった今は、むしろ高校生こそが輝かしく見える、不思議な感覚に気付かされ、こうして高校時代を振り返るのもよいものだと思います。

準備や企画に尽力してくれた同窓生の皆さん、そしてお忙しい中お越しくださった先生方、本当にありがとうございました。またお会いしましょう!

記・中前 裕貴



次回65歳の再会を約束

(西高24回生)

▽とき 令和2年1月3日(金)
▽ところ 倉吉シティホテル(倉吉市)

令和になり初めての1月3日、6年ぶりに恩師の牧野先生、松島先生、森本先生、高塚先生にもご出席いただき同窓会を開催しました。物故者の方々を偲んで黙とうし、現在尚操会会長として頑張っている藤井君の乾杯で宴会が始まりました。

卒業して半世紀近く過ぎようとしています。今だから話せる高校時代のエピソードや近況を語り合い、あつという間の楽しい時間を過ごしました。次回65歳の再会を約束し、山本君の一本締めでお開きとなりました。

記・山上 敬善



事務局より

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、社会情勢が大きく変化しています。尚操会活動にも影響し、第1回役員・支部長・副支部長合同会議及び、8月16日に予定していた尚操会総会も中止となりました。

会報『尚操』の配布も難しくなっています。今年度は各支部の意向に沿っての配布とありますが、世話人さんの負担は大きく、今後配布方

法を検討していきたく考えています。ご承知願います。

また、今年度は8年ぶりの『尚操会名簿』を10月に発刊します。会員の皆様には大変お世話になりました。購入を希望される方は尚操会事務局(倉吉西高)までご連絡ください。

なお、令和3年度の尚操会総会は、8月21日(土)に倉吉シティホテルで予定しています。今年の総会が中止となったため、来年度の総会は平成3年(38回期)、平成4年(39回期)、平成23年(58回期)、平成24年(59

回期)の卒業生の方々に幹事学年をお願いします。よろしくお願ひします。

最後になりましたが『尚操会ホームページ』には、尚操会に関する様々な情報や会報『尚操』のバックナンバー、10人以上で開催する同窓会、クラス会への補助等について掲載していますのでご覧ください。総会以外でも同窓会、クラス会を開催されるに当たり、参加人数が10人以上であれば補助金を支給しています。また、クラス会の様子を会報に掲載したく思いますので、写真や原稿を送っていただければ幸いです。詳しくは『尚操会ホームページ』をご覧ください。

応援よろしくお願ひします

佐伯 亮輔さん
(27歳 西高第60回卒業生 (H25年))

■プロフィール

倉吉東中～倉吉西高～中央大学
2017 日本競輪学校合格 (113期)
2018.07.05 プロデビュー
2018.12.31 9連勝を飾り特別昇進でA級2班へ特別昇進
2020.01.01 S級昇進



尚操会の皆様、倉吉西校関係者皆様いつも応援いただきありがとうございます。佐伯亮輔(平成25年卒)と申します。本年度で競輪界へ入り2年目となりました。本年2020年は1月1日よりS級2班へ昇進し、更に上を目指し活動しております。伝統ある倉吉西高校で自転車競技に出会い、多くの方々支えられ育てていただきました。今後もプロ活動や競技活動を通じて活躍を報告し恩返しできるよう精進してまいります。

また、本校卒業生の活躍もめざましく大学へ進学し多くの全国優勝・入賞し、自転車競技会では倉吉西高は全国屈指の強豪校として認知されています。その中から、今年競輪の道へ2人の後輩が合格しています。昨年度のインカレ(全日本大学対抗戦)で三冠(スプリント、1km、チームスプリント優勝)、そしてチームスプリントでは日本新記録を樹立した山根将太(平成27年度卒)が合格しました。また、鳥取県初的女子プロ選手として全国選抜大会準優勝、インターハイ4位の宮本杏夏(令和元年度卒)が合格しプロへの道を歩み始めました。県内では数少ないプロ選手ですが、倉吉西高そして地域の顔となるような活動をしていきたく考えています。皆様応援宜しくお願ひします。

第2回尚操会グラウンドゴルフを楽しむ会

西高13回生はベビーブームの最初の年で、入学時新任教師が13名でした。その中で数学担当の(故)太下一郎先生とグラウンドゴルフで卒業以来にお会いしたことがきっかけで、年2回、13回生と太下先生、参加は10人程度でグラウンドゴルフの会を始めました。「将来はOB会になればいいなあ」と太下先生と友達の希望でした。昨年に初めて藤井会長さんからグラウンドゴルフの大会についてのお話があり、喜んでお受けいたしました。

週3回のグラウンドゴルフが楽しく、生活の中の運動として頑張っております。



13回生 絹見 けい子

尚操会 ホームページ紹介

【公式】尚操会 | 鳥取県立倉吉西高等学校同窓会
<http://shosokai.info/index.html>

「倉吉西高同窓会」で



同窓会幹事様へ
尚操会を掲載したい
ご相談はこちらから
ご報告

新着情報

- 2020/01/21 令和2年度第1回役員・支部長・副支部長合同会議を開催しました。
- 2020/07/16 令和2年度第2回役員・支部長・副支部長合同会議を開催しました。
- 2019/12/26 令和2年度第1回同窓会・クラス会を開催しました。
- 2019/11/27 第2回尚操会グラウンドゴルフ大会を開催しました。
- 2019/11/10 令和元年度役員・支部長・副支部長合同会議を開催しました。
- 2019/09/28 第1回尚操会グラウンドゴルフ大会を開催しました。
- 2019/08/27 尚操会ホームページをリニューアルしました。

イベントのお知らせ
尚操会 グラウンドゴルフ
尚操会 ゴルフコンペ
卒業生からのお知らせ

創立百周年記念誌 販売中です



創立百周年記念誌の購入を希望される方は、尚操会事務局(学校)までご連絡ください。

● 1冊 5,000円
(振込手数料・送料が別途必要)

尚操会名簿
10月発刊予定です